

「住民の方との対話」を目的に、まちかどインタビューを掲載しています。

町内の里山・森林が気になります



御射山神戸区
小林定博さん

御射山神戸区で菊作りをなさっている小林定博さんにお話を伺いました。

○今のお仕事は如何ですか？
菊作りをはじめて20年を越しました。昭和60年ごろにキヤベツ栽培から転換しましたが、当時のほうが経営も安定していたように思います。
家族だけではこなせなかつたため、以前は町内の奥さん方に手伝っていただいていたのですが、皆さん高齢化になり、また家族の高齢化により、今

は中国からの研修生二人に手伝っていただいています。
研修生は3月末に来日し、11月には帰ります。二人とも熱心で、助かっています。ただ「研修」のため、来年も同じ方に来ていただくことが出来ないことが残念です。

○今の経営は如何ですか
台風の影響がなかったことなどにより、安値が続いています。そのうえ肥料・農薬の倍近い高騰により、今年、そして来年は更に厳しくなると思います。

町内では後継者不足により栽培農家が減少しているのがさびしい思いです。
○これから考えていることは菊の栽培は富士見町の気候に合っていると思います。今後は、数を追うのではなく、価値のある良いものを作っていきたいと思っています。

○町政に何を望みますか？
町内の里山・森林が荒れているのが気になります。林の間伐・手入れに力を入れて欲しいと思います。

今薪ストーブが普及していますから、薪の需要者と供給者の間を町が関与したら如何でしょうか。また薪の必要な方にチェンソーの使い方の講習会を開いたらと思います。

J A あぐりモールの入口の事故が多いのが気になります。交差点の車線を増やすとか、信号をつけるとか裏側に抜ける道をつけるとかの工夫が必要だと思います。



研修生の都波さんと、
とつは 呉さん
うえい

編集後記

今年は、井戸尻発掘50周年7月の観蓮会を皮切りに、さまざまなイベントが催されている。

井戸尻は考古学会の中では異端児だと、以前から耳にしていた。土器の文様のみの研究が一般的であるのに対し、井戸尻では、縄文の人々の生活、世界観、宗教観までを研究対象としている。素人からすると、井戸尻の捉らえの方が納得できる。富士見町の誇るべき宝だと、再認識させられた。

また、発掘は、地元の皆さんが中心となって進められたそう。先人たちに学ぶことも、又多い。

(エンジェル千代子)

■議会広報編集委員会

編集委員長 小林 光

副委員長 名取 武一

委員 エンジェル千代子

〃 織田 昭雄

ふじみ議会だよりは、議会ホームページにも掲載されています。